

平成16年度遠洋漁業関係専門特別部会 報告書

会議責任者	遠洋水産研究所長
-------	----------

- 1 開催日時及び場所 日時 平成17年3月1日13:00～17:30
場所 清水テルサ(静岡市清水)(別添1:議事次第)
- 2 出席者所属機関及び人数 10機関 24名(別添2:出席者名簿)
- 3 結果の概要

議 題	結果の概要
・試験研究推進会議運営規約変更について	所長より推進会議の運営が、水産庁委託から水研センターの本来業務となったこと、それに伴い運営規約を変更し、遠洋漁業関係試験研究推進会議が遠洋漁業関係専門特別部会へ改組されたことを説明し、了解された。なお、今後の特別部会の運営に関しては、本会議の最後の議題で協議することとなった。
・試験研究の実施状況に関すること	遠洋水産研究所3研究部、1研究グループ、開発調査部、栽培漁業部、参加6県、日本鯨類研究所から、平成16年度の調査研究の実施概要及び17年度の計画について報告がなされた。
・試験研究のニーズ、連携に関すること	1)三重、静岡県から、大型竿釣り船経営のビンナガへの依存度が大きくなったことから、ビンナガの来遊予測や漁場形成要因の解明に対する期待が強いとし、これらに関する研究への要望が示された。当方より、これらの研究に関しては、カツオの来遊量予測も含め、国際資源調査事業の中で対応してきたこと、更に、本年度より漁業情報サービスセンターへの再委託事業として実施していることなどを説明し、今後とも、漁業情報サービスセンターを含め、県、遠水研で連携して研究を展開してくよう協力を依頼した。 2)人工衛星などによるリアルタイムの海況情報についての情報提供の依頼がなされた。これについては、既にインターネット上に無料で公開された情報などがあることを示し、現在水研センターで開発中のモデルによる予測情報なども将来公開される可能性がある旨説明した。 3)まぐろ類に関して中長期的な資源変動と海洋環境との関連についての研究が遠水研で展開されているが、その研究の中に生態系という視点から、まぐろ類間の種間関係がどのように作用しているかを検討すべきではという指摘がなされた。現在、まぐろ類の資源変動の要因として種間関係が検討されたことはほとんどないこと

	<p>を説明した。そして、このテーマは今後の重要な課題であり、外洋域の生態系研究を今後どのように展開するのかという議論にあわせて今後も関連研究機関で協議したい旨依頼した。</p> <p>4) 鯨類については、今年より宮城県と日本鯨類研究所及び遠水研が連携して、鯨と餌生物の係に主眼をおいた調査が実施される予定であることが説明された。この連携による研究の成果が期待される。また、今後は、スケトウダラ、サンマ、カタクチイワシなどの沿岸資源研究との連携も必要となることが指摘された。遠水研のみならず、他の海区水研や県の研究機関との連携も必要となると考えられる。</p>
<p>・研究成果に関すること</p>	<p>遠水産研究所から5課題の研究成果情報が提案され、検討の結果、全ての課題を遠洋漁業関係専門特別部会の研究成果情報として本部に報告することとした(内容は遠水産研究所ホームページ参照)。</p>
<p>・今後の専門部会の運営に関すること</p>	<p>平成16年度より、試験研究推進会議が水産庁の委託事業から水研センターの本来業務へ移行したことを受け、遠洋漁業関係試験研究推進会議も特別専門部会として改組された。この改組を受け、本部会の目的を果たすためには、どのような運営を行うことが望ましいか協議した。事務局より毎年テーマを絞り、それぞれのテーマに適した参加者によって部会を柔軟に運営する方針を提案した。それに対して、従来の推進会議のように遠水研の研究全体が見渡せるような機会が必要であるという意見が県より出された。今後、このような要望のあることも踏まえ、具体的事項について協議をする場として、この専門部会をどのように運営するかについて、各研究機関より意見をつのり、それらの意見をベースとして、来年度以降の部会運営の具体案を提示することとした。</p>

平成 16 年度水産総合研究センター水産業関係試験研究推進会議
 遠洋漁業関係専門特別部会
 議事次第

日時：平成 17 年 3 月 1 日（火）13：30～17：30

場所：清水テルサ 7 階会議室

座長（企画連絡室長）

- | | | |
|------------------------------------|----------|------|
| 1. 開会 | 企画連絡室長 | 1:30 |
| 2. 主催者挨拶 | 遠洋水産研究所長 | |
| 3. 水産庁挨拶 | 水産庁研究指導課 | |
| 4. 出席者紹介 | 座長 | |
| 5. 資料確認 | 座長 | |
| 6. 水産総合研究センター水産業関係試験研究推進会議運営規程の説明 | 所長 | |
| 7. 研究をめぐる情勢 | 所長 | 1:40 |
| 8. 試験研究の実施状況に関する事（各研究機関報告） | | |
| 遠洋水産研究所（3 研究部長、1 グループ長） | | 1:50 |
| 開発調査部 | | |
| 栽培漁業部 | | |
| < コーヒー・ブレイク > | | 3:10 |
| 岩手県水産技術センター | | 3:20 |
| 宮城県水産研究開発センター | | |
| 神奈川県水産総合研究所 | | |
| 静岡県水産試験場 | | |
| 三重県科学技術振興センター水産研究部 | | |
| 宮崎県水産試験場 | | |
| 日本鯨類研究所 | | |
| 9. 試験研究の成果に関する事（研究成果情報）（企画連絡室長） | | 4:50 |
| 10. 試験研究のニーズと具体的な取り組みに関する事（企画連絡室長） | | |
| 11. その他必要と認められる事項に関する事（企画連絡室長） | | |
| 12. 閉会 | | 5:30 |

平成 16 年度 水産総合研究センター水産業関係試験研究推進会議
遠洋漁業関係専門特別部会出席者名簿

所 属	職 名	氏 名
水産庁 増殖推進部	参事官	和田 時夫
水産庁 資源管理部 国際課	国際協定 第 2 係	佐藤 紗也子
	国際協定 第 4 係	中村 厳哲
岩手県水産技術センタ -	副所長	長洞 幸夫
宮城県水産研究開発センタ -	海洋資源部長	佐々木 良
神奈川県水産総合研究所	資源環境部長	亀井 正法
静岡県水産試験場	漁業開発部長	幡谷 雅之
三重県科学技術振興センタ - 水産研究部	研究企画監	中島 博司
宮崎県水産試験場	漁業加工部 漁業開発科長	松本 正勝
東海大学 海洋学部	教授	田中 彰
日本鯨類研究所	参事	藤瀬 良弘
水産総合研究センター 本部 研究調査部	研究調整課長	中奥 龍也
	開発調査部 開発調査 2 課長	廣川 純夫
	栽培漁業部 奄美栽培漁業センター 場長	升間 主計
	水産工学研究所 水産情報工学部長	宮野鼻洋一
	遠洋水産研究所 所長	石塚 吉生
	企画連絡室長	魚住 雄二
	浮魚資源部長	鈴木 治郎
	近海かつお・まぐろ資源部長	馬場 徳寿
	外洋資源部長	川原 重幸
	海洋研究グループ長	稲掛 伝三
	総務課長	白鳥 高志
	事務局	張 成年 小倉 未基